



**WORLD
MASTERS
GAMES**
2027 KANSAI
JAPAN

ワールドマスタースゲームズ2027関西 大会概要

公益財団法人

ワールドマスタースゲームズ2027関西組織委員会

ワールドマスタースゲームズとは

1

国際マスタースゲームズ協会（IMGA）が主宰
概ね30才以上であれば誰でも参加でき、4年ごとに開催される

世界最大級の生涯スポーツの国際総合競技大会

参加基準は年齢のみ

予選なし、
複数種目も登録可能

元プロ・アマ選手
問わず出場可能

誰もがメダリスト候補者！！

初戦から海外参加者との対戦が可能であることもワールドマスタースゲームズの特徴。競技種目は年代別で実施され、各年代別にメダルが授与されます。



国際マスタースゲームズ協会（IMGA）とは



年齢、性別、人種、宗教、そして競技レベルにかかわらず、スポーツ愛好家同士の友情や相互理解を奨励している世界的なマスターススポーツの代表団体で、スイスのローザンヌに本拠を置きます。

国際的な総合スポーツ大会を組織すること、スポーツを生涯続けることにより個人の身体能力の向上が可能であることの啓発（世界中の成人に対し定期的にスポーツの実施を促し、マスタースゲームズに参加するよう呼びかけ）を行っています。

本協会の目的は、“**スポーツ フォー オール**” ～Sport for All～ のオリンピック憲章における哲学の普及を行い、オリンピック・ムーブメントを支持することです。



これまでの開催大会

第1回(1985)

トロント
＜カナダ＞



61か国・8,305人

第2回(1989)

ヘアニング、
オールボー、オーフス
＜デンマーク＞



76か国・5,437人

第3回(1994)

ブリスベン
＜オーストラリア＞



71か国・23,659人

第4回(1998)

ポートランド
＜アメリカ＞



101か国・11,000人

第5回(2002)

メルボルン
＜オーストラリア＞



97か国・24,886人

第6回(2005)

エドモントン
＜カナダ＞



89か国・21,600人

第7回(2009)

シドニー
＜オーストラリア＞



95か国・28,676人

第8回(2013)

トリノ
＜イタリア＞



107か国・19,000人

第9回(2017)

オークランド
＜ニュージーランド＞



106か国・28,578人

第10回(2025)

台北、新北
＜台湾＞



約 25,000人

第11回(2027)

関西エリア
＜日本＞



約50,000人（目標）

Point
1

初めての
広域開催

Point
2

参加者約5万人目標
過去最大規模の大会



ワールドマスタースゲームズ2027関西概要

- 1 開催期間** 2027年5月14日（金）～ 30日（日）の17日間
- 2 開催競技** 公式競技 35競技59種目（他 オープン競技実施）
- 3 開催場所** 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、
徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市
- 4 開催目標** 参加者5万人（国内3万人、国外2万人：150か国・地域以上）
- 5 主 催** 公益財団法人ワールドマスタースゲームズ2021関西組織委員会
開催府県政令市実行委員会及び開催市町等実行委員会
- 6 共 催** 公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本パラスポーツ協会
- 7 後 援** スポンサー



エントリー概要



大会参加申込期間

アーリーエントリー : 2026年1月～

一般エントリー : 2026年3月～2027年2月



大会参加料金

競技出場者 : 国内在住 15,000円

国外在住 34,000円

競技関係者 : 国内在住 5,000円

サポーター 国外在住 20,000円

大会マスコット

「スフラ（Sufula）」

大会のエンブレムである桜をモチーフとするスポーツの妖精で、大会テーマの「スポーツ・フォー・ライフ」の頭文字が名前の由来。

スポーツを愛する人（する・みる・ささえる）を応援してみんなをハッピーにすることを特技とする。



参加対象者

概ね30歳以上とし、競技ごとに定める





■大会基本理念

一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、

次世代に夢をおくる生涯スポーツの祭典を創出する。

■大会テーマ

スポーツ・フォー・ライフの開花

(The Blooming of Sport for Life)

■大会コンセプト・エンブレム

- 個人（個性が輝く）「晴」舞台
一人ひとりの挑戦と可能性を開く
- 交流（多様性が交わる）「表」舞台
世代・地域・文化がつながる
- 文化（関西を魅せる）「華」舞台
関西の魅力と文化を発揮する
- 世界（グローバルを体感する）「大」舞台
国際色に溢れ感動を共有する
- 未来（将来に伝える）「夢」舞台
次世代にエネルギーと躍動感をおくる



ボランティア

ボランティア活動が運営の重要な支えとされることから、各地域で一般ボランティアおよび専門ボランティア（語学、介助等）延べ約38,000人を募集する。募集や研修等は、活動場所および業務内容に応じ、組織委員会および実行委員会においてそれぞれ実施する。

開閉会式

(1)開会式

- ・開催日 : 2027年5月14日（金）
- ・会 場 : 京都市岡崎エリア
- ・プログラム内容 : 選手パレード、オープニングパフォーマンス、IMGA旗の掲揚、オフィシャルスピーチ、選手宣誓 など

(2)閉会式

- ・開催日 : 2027年5月30日（日）
- ・会 場 : 大阪市内
- ・プログラム内容 : オープニングパフォーマンス、オフィシャルスピーチ、ハンドオーバーセレモニー（大会旗引継ぎ）、フィナーレ など

交通・宿泊・観光

広域にわたる各競技会場へスムーズに移動できるよう、交通パスやシャトルバスなど、参加者の利便性の向上に向けた取組を行う。また、各開催地の宿泊情報や魅力ある観光資源を大会公式ホームページ等で情報発信することで、滞在中における関西各地への周遊につなげる。

交流の場

各府県・開催地の観光情報等の発信及び参加者同士・参加者と地域との交流促進を目的に、各府県において少なくとも1か所以上の交流の場（マスタースビレッジを含む）を設置する。

誘客

国内在住参加者30,000人、国外在住参加者20,000人の獲得に向け、組織委員会及び府県市実行委員会が連携し、エントリー開始までの準備期間、エントリー受付期間の各段階において、計画的で実効性の高い誘客活動を展開する。

(1)国内誘客

日本スポーツマスターズ、国民スポーツ大会、障がい者スポーツ大会、ねんりんピック大会 等

(2)海外誘客

オーストラリアンマスターズ、パンパシフィックマスターズ、ニュージーランドマスターズ 等



ワールドマスタースゲームズ2027関西の特色

① 過去最大:参加者5万人(目標)

② 広域開催:関西全域(2府7県)

③ インクルーシブな大会(18競技)



ワールドマスタースゲームズの特徴と楽しみ方

10



「する」～do～

スポーツを愛する人々なら誰でも参加可能！
インクルーシブを実践するオープン型の大会



「みる」～watch～

家族や仲間も応援に来る、世代を超え
一緒に楽しむスポーツ大会



「ささえる」～Support～

ボランティアとしても参加可能
開催地住民も巻き込んだ大会運営



「集う」～gather～

大会参加者同士、ボランティア、地域住民と…
たくさんの新たな出会いと交流を生む大会

「楽しむ」～enjoy～



「巡る」～travel～

大会参加者（国外）の滞在平均15日間
スポーツツーリズムを実践した大会



新しいスポーツ文化の定着

▶ 自らの意思で、自らの負担で出場

- ・ 30歳以上であれば、資格も予選もなしで参加できる大会づくり

▶ インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくり

- ・ 障がい者部門の設定や、健常者と障がい者が共に競う競技の実施

▶ 地元の文化、経済との交流、ツーリズムの促進

- ・ オリジナル交通パスやアプリの開発、検討
- ・ 大会参加者へのおもてなしとして、特別体験プランを各地で企画
- ・ 宿泊サイトにより、選択肢の多い宿泊プランの提供

▶ 全てのアスリートが参加できる場の提供

- ・ 元プロもアマチュアも、同一条件で競い合う大会

競技面での取組

- 障がい者部門での競技の実施 11競技15種目
- 健常者と障がい者が共に競う競技の実施
12競技20種目

【参考】過去大会の障がい者競技実施状況

2009年シドニー大会 0競技

2013年トリノ大会 3競技

2017年オークランド大会 8競技

大会運営面での取組

- ボランティア参加の促進
 - ・ 障がい者の参加
(障がい者スポーツ団体との連携による)
 - ・ 障がい者競技等の支援のための参加
(企業や福祉関係団体との連携による)
- 障がい者への配慮や心配りのできる大会づくりの推進 (バリアフリー、手話通訳、音声案内等を検討)
- 障がい者スポーツ団体との連携による障がい者競技の審判員、指導員の育成促進

乗降船時の介助
(肢体不自由者)



フラッグ等による審判実
施 (聴覚障がい者)



伴走者の参加
(視覚障がい者)



過去大会参加者の特徴

出典：IMGA作成WMGガイドラインより

過去WMG開催期間中の
国内選手滞在平均日数

9.4日

過去WMG開催期間中の
国外選手滞在平均日数

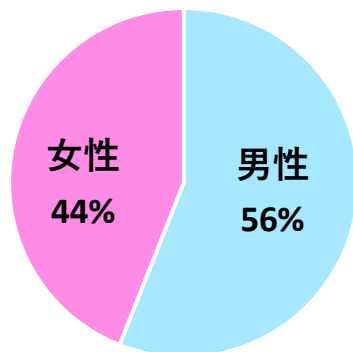
15.8日

■ 参加者ひとり当たりの同行者数

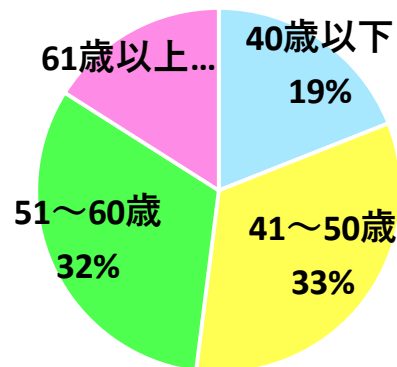
2名

(関西大会では、
総勢15万人が入域を想定)

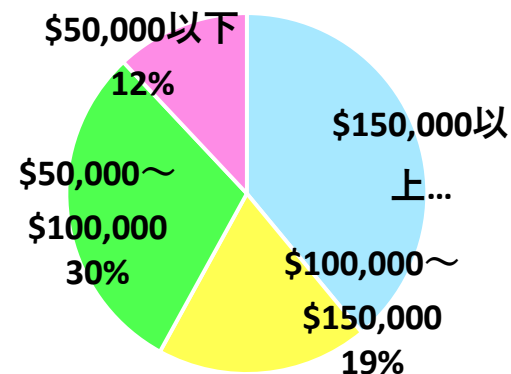
■ 男女分布



■ 年齢分布



■ 世帯収入分布



★日本初開催、欧米豪のリピーター層、ターゲット層の特徴などから考える効果★

- ・ 欧米豪にリピーターが多く、**同行家族らとともに訪問国の観光を楽しむ**傾向がある
- ・ 比較的年収の高いアクティブシニア層が通常の観光に比べて**長期間滞在し、様々な消費を行う**
- ・ 訪日目的は観光ではなく大会参加であり、訪日の新たな機会となる
- ・ 競技開催地が広域にわたり、これまで偏りがちなインバウンド受け入れを分散するきっかけとなる



競技参加に加えて交流や観光を楽しめるよう大会オリジナルの交通パスやシャトルバスを運用し、利便性の向上を図ることで大会参加者の周遊を促進します。

また、大会参加者へのおもてなしとして特別な観光プランを各開催エリアで企画しています。

開催地ごとのおもてなし

開催エリアごとの交流の場

大会専用
宿泊サイト

ストレスフリー
の移動

交通パス
「WMGオリジナル
KANSAI ONE
PASS」



WMG2027関西
観光プラン

お土産
特産品

世界と地域を繋ぐ

全国の国宝・重要文化財建造物のうち約42%が存在

大会開催協賛社 (2025.12現在)

15

※アルファベット順

メジャーパートナー



パートナー



サポーター



メディアパートナー

